

経営者への活きた言葉

経営トップの必要条件 高橋 温(三井住友信託銀行相談役)

1. 企業の経営トップの必要条件は、「好奇心が旺盛であること」、「言動が歴史観を踏まえたものであること」、そして「金銭感覚を備えていること」の3条件に尽きると思っている。
 先ず「好奇心」、これがないと何も始まらないし進歩がない。主体的行動のエネルギーの源泉である。天皇陛下の心臓手術の「神の手」執刀医、天野篤順天堂大教授が学生によく言っている言葉が「好奇心」であるようだ。どの分野でも変化に敏感であることが大切である。
2. 次に「歴史観」。視野の広さと言い換えてもよいが、歴史観のある人は、多様な視点と時間軸の中で考えるので、社員、取引先、株主に安心感を与える。読書をしない人が「底が浅い」のはこれを欠くためである。
 最後が「金銭感覚」。企業経営者であるから、収支尻というのは商業の原点である。いかなる時も、リスクを抑えることと絶えずリターンを求めることにぬかりがあってはならない。
3. 時々、非常に頭もいいし、読書家でもある、しかしなんとなく危なかしいというトップもいるが、こういう場合、概して最期に挙げた金銭感覚に問題がある。

(参考:「文藝春秋」2012年8月号)

経営者のための経理学

経理・財務の最も大切な仕事とは 金児 昭(信越化学工業顧問)

1. 経理・財務の役割は会社をつぶさないよう1円の利益を出すようにサポートすることだ。
 信越化学工業の経理・財務として財テクは1円もしなかった。そうしてことが評価されて1998年から2年間、金融監督庁(現金融庁)の顧問になった。実際は何もやらないほうが楽だから財テクをやらなかっただけ。ただ、バブル期には何もやらないことも大変だった。「何で財テクをやらないのか」と、横や斜めからやりで突き刺された。でも、真上からだけは何も言われなかった。
2. 経理・財務は事業部門をバックアップするのが仕事で、主役であってはならない。尊敬する小田切新太郎元社長・会長から「経理・財務は、会社を危うくする人やモノを、それが社長である私であっても、絶対に許してはならない。それが最も大切な仕事である」と教わった。

(参考:「週刊東洋経済」:2012年5月12日号)